第４号
リラのいえ
2010年１月発行

病気や障害と闘っている
子どもと家族のことを一番に考えながら

ＮＰＯ法人スマイルオブキッズ代表理事　田川　尚登

私たちの活動には終わりがありません。私たち人間が生き続けていく限り、新しい生命が誕生します。しかし、すべての子どもが健康で生まれてくるとは限りません。これは神様の配慮で、いろいろな子どもたちがこの社会に必要だからだと、私は考えます。みんな違っているということで、誰もが生きていく意味を見出せれば、それぞれが持つMission（使命）を達成していくことができると思います。もちろん、すべての人が自分のMission（使命）に気づいているわけではありませんが、素晴らしいことに、我々の仲間は、気づきをしている方がほとんどです。

「リラのいえ」のボランティアさんの何気ない行動、さりげない言葉は、暖かい春風のように利用者の心をつつみこんでしまいます。悩みや苦しみから、心を少しずつ解き放してくれます。安く泊まれるだけではない温かい何かがこの“いえ”には存在します。それが私にとっても仲間たちにとっても大事にしていきたい宝物なのです。

患者家族の経済的負担の軽減はもちろんですが、病気を受け入れ、乗り越えていく勇敢な子どもたちや両親・家族を見ていると私たちの活動の成果を感じます。それと同時に大きな喜びが生まれ、活動のエネルギーに変換されていくのがわかります。

2009年から始まった「リラのいえ」での「きょうだい児預かり保育事業」も「リラのいえ運営事業」とともに赤字事業ではありますが､利用家族に大変喜ばれております。医療センターを訪れる患児の診察や面会に、きょうだい児は入れません。そのため、親の愛情の多くが患児に向いていると感じてしまいがちです。いつも我慢をしているきょうだい児のストレスを発散させる場として、プロの保育士が見守る「きょうだい児預かり保育事業」はとても役立つものでしょう。

この平屋の建物の中では、いろいろなドラマが毎日繰り広げられています。いろいろなドラマの演出は、ボランティアだけではなく支援してくださる皆様の温かい心も一役を担っています。本当にいつもご支援をありがとうございます。

今年も昨年に続きNPO法人スマイルオブキッズは、病気や障がいを持った子どもと家族のことを一番に考えながら行政にはできない活動を続けてまいります。今年も患児と家族、ご支援くださる皆様にとって良い年になりますようお祈りしています。

寄稿

新年、明けましておめでとうございます

こども医療センター・総務局長　菅家　龍一

明けましておめでとうございます。昨年の４月にこども医療センター総務局長に就任いたしました菅家（かんけ）と申します。

私は2002年４月から約５年間、県立病院課に勤務していたとき、患者・家族滞在施設の建設に関わらせていただきました。当時、施設のことを知らない私に、小宮先生や田川さん、佐伯さんは具体的な数字を示しながら「どうしても建てなければならないんです」と説明されたのですが、煮え切らない返事をしていたような記憶があります。

しかし、熱い想いには人を動かす力があります。いつの間にか、私も建設推進派の一人になっていました。2004年12月１日に行った「開設についての要望書」を大木副知事（当時）に提出するための日程調整、2005年４月18日に用地確保の要望書を受領させていただいたこと、同年５月10日には堺病院事業庁長が建設用地を確保すると回答をしましたが、その回答書の案の作成に携わったこともありました。2006年11月10日には県が建設用地を提供することについて松沢知事に記者会見で発表していただくとともに、松沢知事、堺病院事業庁長の出席のもとに、田川理事長に書面で建設用地提供の具体的な提示をさせていただいたことなど、今でも鮮明に記憶しています。

残念ながら建物の完成を見ずに転勤となり、2008年５月25日に挙行されました開設式でもほかの公務が重なり出席できませんでしたが、当センターに着任して１週間目にようやく「リラのいえ」を拝見することができました。想像より遙かに立派で、心のこもった建物として目の前に存在している、その建物を目の前にして、改めて当時のことを思い出しました。このたび、当センターに転勤となったのも、こんな因縁のようなものがあったからなのかなと思っています。

現在、私は県立病院の地方独立行政法人化に向けて、さまざまな調整課題に取り組んでいます。ご存知かもしれませんが、県立７病院を所管する神奈川県病院事業庁は、2010年４月１日をもって、指定管理者制度を導入している汐見台病院を除いた６病院（足柄上病院、こども医療センター、精神医療センター、がんセンター、循環器呼吸器病センター）について、地方独立行政法人に移行します。

県立病院の経営は県の組織の中で行われていることから、財務、組織、人事管理などにおいてさまざまな制約があります。そのため、県とは別の法人に移行し、スピーディな経営を行うことによって、より柔軟に医療ニーズに対応していく必要があります。どうぞ、この取り組みにご理解を賜りますようお願いするとともに、変わらぬご支援をいただきたいと思っております。

末筆ではありますが、「リラのいえ」の活動に心から感謝いたします。皆様のますますのご活躍をお祈り申し上げまして、新年のあいさつとさせていただきます。

利用者の声

私の娘は重度のピーナッツアレルギーでした。ピーナッツはその症状の激しさから、栗原先生のもとでしか治療は始まっておらず、娘は全国でも７例目となります。2009 年９月にこちらに伺った際は、ピーナッツをさわっても危険で、微量の混入も生命に関わるとの診断により、ピリピリした状態でした。

神奈川県立こども医療センターの栗原先生のもと、研究段階の新治療を受けることとなり、娘と二人、「リラのいえ」にお世話になることになりました。

今回伺う前から決まっていた CBC（中部放送）の取材と、こちらに来てから依頼の入った NHK ゆうどきネットワークの取材もあり、治療の緊張と取材の負担が娘にも私にも重く（!?)、精神的にも肉体的にもきついと思う時期がありました。

そんなとき､心を癒してくださったのが「リラのいえ」のボランティアの皆様でした。NHK の放送を一緒に観てくださったボランティアさんが、我がことのように喜んでくださり、娘も幸せだったと思います。

当初、娘は取材をずっと嫌がっていました。かわいそうだとは思いながら、「全国の方々に食物アレルギーの子どもたちに関する正しい情報を発信し、希望を持って欲しい」との願いから取材を受けていた私…。あの放送から、あのときの皆様の反応から、娘が「取材を受けて良かった」と少しでも感じてくれたのではないかと私は感じます。

長期（1 ヶ月）治療を続けることができたのも、病院に近く、ほっとできる「リラのいえ」があったからこそだと思います。本当に、本当にありがとうございました。ここでの経験は、きっと娘のこれからに活きてくると信じます。

これからも長く「リラのいえ」の活動が続くことを願っています。皆様、お身体大切に。ますますのご活躍を愛知の空の下、願っております。

ピーナッツが３粒食べられるようになった中学１年生の娘とともに感謝をこめて。

追伸：
滞在中ご一緒したお母様方とも夜遅くまで時間を忘れお話したこと、よき思い出として残っています。心救われることがたくさんありました。この場をお借りしお礼申し上げます。お身体大切になさってください。

（栗田洋子）

ボランティアより

滞在施設があったから遠方まで赴き治療を行うことができたとご家族から聞き、ささやかながらお手伝いができたこと、スタッフ一同嬉しく思っております。中部放送・中日新聞・NHK テレビをご覧になった石川県、福岡県の方々も利用していただけるようになりました。治療中、メディアにもご協力いただき、多くの方へ情報提供をすることができました。また、主治医から施設をご紹介いただけるなど、ありがたい限りです。「リラのいえ」は、これからも病院とともに歩んでまいりたいと存じます。

第 10 回 JHHH ネットワーク会議に参加して

（松尾忠雄）

病気の子どもと家族のための滞在施設を全国各地で運営する 16 団体の関係者 95 人が参加して第 10 回 JHHH ネットワーク会議が 10 月 17 日（土）福島県立医科大学で開催されました。昨年は NPO 法人スマイルオブキッズと NPO 法人ファミリーハウスが主催して横浜で開催しましたが、今回はリラのいえのスタッフ 4 名が参加しました。

会議は、全国の滞在施設運営の質的向上を図る目的でパンダハウスを育てる会、NPO 法人ファミリーハウス、公立大学法人福島県立医科大学の主催で、午後 1 時より福島県立医科大学菊池臣一理事長の開催のあいさつに始まり、2 時 30 分までの基調講演と 2 時 45 分から 6 時までの分科会の 2 部構成で実施されました。

第 1 部の基調講演はメイク・ア・ウィッシュオブジャパン本部事務局長の大野寿子氏が「ボランティアコーディネートについて」と題し、ボランティア団体「メイク・ア・ウィッシュ」で活動するボランティアのコーディネートについて、「リラのいえ」にも役立つ話を講演しました。第 2 部の分科会は参加者が「ボランティアに関すること」「地域との連携に関すること」「利用者対応に関すること」の 3 分科会に分かれてそれぞれ意見交換を行いました。

ハウスの質的向上を図るための重要な観点は「運営スタッフ、ボランティア、地域の支援者、利用者が一緒にハウスを運営する」という認識を共有すること、また、ハウスのボランティア活動が本人および運営組織にとって満足できるものとなるためにはボランティアコーディネートが肝心であることを再認識しました。

会議の翌日、10 月 18 日（日）には午前 9 時から福島県立医科大学の近隣にある滞在施設「パンダハウス」を見学しました。3 室の個室とキッチンなどの共有スペースがあり女性だけのボランティアが運営していますが、私たちの「リラのいえ」にも参考となる点が随所にみられました。午後 1 時 30 分から宮城県立こども病院と病院の敷地内にあるドナルド・マクドナルドハウスせんだいを見学しました。マクドナルドハウスは部屋数が 16 室、広い施設と充実した設備が整ったハウスで、ボランティアも張り切って活動していました。

今回のネットワーク会議は主催団体のパンダハウスを育てる会の心遣いが十分に感じられる雰囲気の中で「ハウス運営の質的向上を図るため」の討議が熱心にされましたが、ネットワーク会議に参加する団体が毎回ほぼ同じで少ない点が今後の課題と思われます。

パンダハウスの前で

きょうだい児預かり保育をして

（保育士　大石貴子）

昨年の２月から始めたきょうだい児預かり保育で、保育士として関わらせていただいています。この間、預かり保育を利用されるご家族と接し、たくさんのことを感じてきました。

ある日、突然に入院や手術を告げられそのときから生活が一変してしまう。患児のことだけでも大変なのに、自分自身、どうしたらいいのかわからない。しかし、現状を受け止めても受け止められなくても、ことは進んでゆきます。若いご両親、子どもたちも必死です。

これまで一度もママと離れたことがないきょうだい児も、病院へ行ったママの帰りをけなげに待っています。その間、せめて彼らには、公園へ行き自由に遊んだり、１対１でじっくり遊んで、我慢していることを思いっきり発散してほしい。ママに代わることはできないけれど楽しい時間を過ごしてほしいと願ってやみません。

パパたちはこれ以上仕事は休めない、ママは産後間もないのに上の子を抱っこしての通院だったり、ドクターからの説明は何時に始まるのかもわからない、などなど病気のお子さんを見守る上で大変なことがたくさんあると思います。そうした心配を少しでも軽減できるよう、私たち保育士もできる限り対処していきたいと思います。

私は、自分のこと、家族のことで精一杯で、それが当たり前と思っていました。でも、「リラのいえ」のボランティアの方々との出会いは驚きでした。自分のことより人のためにできることは何かを考えているにもかかわらず、「自分が嬉しいのよ」と言います。なんだか違う世界に足を踏み入れたような感じです。年末のクリスマス会に参加させていただいたときも、田川さんと子どもの医療を研究している大学院生のＡさんが、理想の子どもの病院について語り合っていました。今は形になっていなくても、将来像を具体的にイメージしていくことで現実のこととなってゆくのだろうと思います。

一昨年秋に、田川さんから「預かり保育を始めることにしたからよろしく」と話があり試行錯誤しながら今日に至りました。保育のときも子どもたちにたくさん声をかけてくださったり、お昼寝の布団を敷いてくださったり助けていただき、ありがとうございます。

このような私に保育の話がきたのも何かのご縁。今後は、よりたくさんの方に預かり保育のことを知っていただき、利用していただけるよう、努力していきます。それと同時に、皆様の中で私自身も成長していければと願っています。

HOUSE OF LILA ’09 EVENTS

「リラのいえ」では、利用者の皆様が疲れを癒し、リフレッシュしていただけるよう、さまざまなイベントを開催しています。

☆ 夏の行事　「バーベキュー会」

８月８日（土）、暑い最中、早朝より施設の急斜面地の草刈を行い、その後バーベキュー会を開きました。ボランティア仲間と滞在中のご家族の協力もあり、にぎやかに準備が進行し、患者さんとご家族、近隣の方々、支援者の方々、こども医療センターの看護師さん、ボランティア仲間が一緒にワイワイと夏の楽しい一時を過ごしました。小さなお子さんのすいか割りもあり、にっこり笑顔のみんなの写真がホールに飾られています。

（岩崎幸代）

料理はお手のもの !?

みんなで一緒に！

楽しさいっぱい ～「リラのいえ」09 年後半イベント①～

☆ 秋の行事　施設見学会とバザー開催

10 月 24 日（土）、滞在施設をより多くの方に知っていただくために、今年も見学会とバザーを同時に開きました。バザー用品が集まるか当初心配しましたが、地域密着の情報誌に案内を載せてもらうことができ、直接届けてくださった方、お送りくださった方など、40 件ほどもご提供いただき、施設の階段横まではみ出すほどでした。「リラのいえ」までわざわざ届けてくださった方は、施設見学後、「ゆったりとして過ごしやすく良い所ですね」と喜んでくださいました。お越しいただいた大勢のお客様には、施設内でボランティア手作りのケーキとコーヒー、お抹茶のお茶席をご用意し、とても好評でした。

バザー終了後、親睦食事会として田川理事長による山形式芋煮会を行いました。小さな患者さんとお母さんたち、ボランティア仲間、お茶席の先生、いつも温かいご支援をくださる方々と芋煮の席を一緒に囲んで和やかな時間を過ごせたことはとてもうれしく、光栄の限りです。皆様ありがとうございました。

（岩崎幸代）

山形 ＝ 芋煮 ＝ おいしい！

バザーでわいわい♪

たくさんのご寄付、ありがとうございました！

HOUSE OF LILA ’09 EVENTS

☆「地域がささえるふれあいコンサート」開催

8月22日（土）午後2時30分から、横浜ラポールシアターにて、「第1回地域がささえるふれあいコンサート」を開催しました。これは普段、コンサートホールなどで生の音楽をゆっくりと聴くことのできない重症心身障がい児と家族に、ゆったりとライブ演奏を聴いてもらおうと、県内の特別支援学校に呼びかけ行われたものです。

参加された150名の方々を、ボランティア30名がサポート。主催は、「重心連絡会～ぱさぱネット」と「NPO法人スマイルオブキッズ」で、横浜市立北綱島特別支援学校PTAと職員、出演者の亀渕友香＆VOJAの皆様のご協力、地元企業などの協賛により実現しました。多数のご応募をいただき、抽選での参加になるなど、ニーズが高いことを実感させるコンサートとなりました。

みんなで開いた「地域がささえるふれあいコンサート」

重度の障がいを持つ子どもは、突然大きな声を出すことがありますし、医療的な行為を必要とすることもあります。そうした状態の子どもたちにとって、大勢の人が集まる映画館やコンサートへ行くことは容易ではありません。ほかの方のご迷惑になるかもしれない、会場まで連れていくのが大変、会場に着いてからが大変、子ども・介助者と家族の席が離ればなれなど、さまざまな理由から、家族も二の足を踏んでしまいがちです。

今回のコンサートは、そうした心配を払拭する大きな一歩になりました。「(ボーカルの)亀渕さんに合わせて歌うんだよ。あれが魂の歌なんだね」「子どもたちの表情を見ていたら涙が止まらなくなっちゃった」などなど、温かい声をかけてくださった皆さん。皆さんのおかげで、本当に素晴らしいコンサートを開くことができました。田川さんをはじめ、リラのいえの皆さんにも多大なご協力をいただき、本当にありがとうございました。

（北綱島特別支援学校PTA会長　岡山美幸）

コンサート風景

楽しさいっぱい ～「リラのいえ」09 年後半イベント②～

▲ チューリップを植えました！！

12 月 12 日（土）、来年の春のため、「リラのいえ」にチューリップを 70 球植え込みました。前日まで雨が降り、寒かったので心配していましたが、当日は朝からキラキラの太陽が輝き絶好の球根の植え込み日和。今年は雨が降り続いたり、新型インフルエンザが流行したりで、植えるタイミングが合わず 12 月になってしまいましたが、球根さんはニコニコ顔で芽を出すのを待っていてくれました。

孫と孫の両親と私の４人で「リラのいえ」に行くと、佐伯さんとボランティアさんが待っていてくださり、植える所を掘り返し、すぐ植えられるように準備をしてくださいました。

手袋や靴カバーを着け準備ＯＫ！　「おおきいね！」「何色かな？」「赤かな？」「黄色かな」「いつ咲くのかな？」「ここに植えてもいいかな？」など、みんなでワイワイ言いながら、孫のコブシ大の球根を１つひとつ丁寧に植えました。

当日は、神奈川こども医療センターで治療を受けるために、秋田県からいらしたご家族と一緒に植えることができました。来年の春が楽しみです。その頃、私も家族みんなで見にきたいと思っています。

「リラのいえ」を利用し病院に通うお友達やご家族の方々、ご近所の皆さんがこのチューリップを見て、「わーきれい！！」と喜んでくださることを願っています。

子どもたちが元気でありますように！　ご両親が元気でありますように！　「リラのいえ」の皆さんが元気でありますように！

孫と孫の両親がお世話になった感謝の気持ちを込めて。

（鶴田恵彌子）

ボランティアさん紹介③
～サービスラーニングを終えて～

「リラのいえ」では、随時ボランティアを受け付けております。2009年夏には神奈川県の大学より、２名の学生がサービスラーニングの一環として、「リラのいえ」の活動に参加してくださいました。お２人より、参加したことの感想をいただきましたのでご紹介いたします。

桐蔭横浜大学　スポーツ健康政策学部スポーツ教育学科　澤野 佑

昨年の夏のサービスラーニング実習において、ご多忙中にも関わらず、丁寧なご指導をいただき、誠にありがとうございました。

実習を通して、事業を行う上で大切な「人と人との関わり」を知ることができました。特に、人とのつながりを強固にするために、どのように相手とコミュニケーションをとるべきなのか、といったことを学べたのは、大きな成果だと感じています。

活動の中では社会人としての心得や作業の注意点、患者家族との接し方、ボランティア精神とは何かなど、細かくご指導いただきました。その中で、人を助けることは自分の持っている時間のほんの一握りのときを削って行なうことであり、その削られた時間は、助けを受けた人はもちろんのこと、行った本人にも優しい時間となることを知りました。この優しい時間を作る行為は周りの人に広がっていき、その結果「リラのいえ」という滞在施設を作り上げることができたのではないかと感じました。

おかげさまでボランティアに対する意識が一層に高まり理解を深めることができました。このような有意義な時間を提供していただきましたことに心から感謝申し上げます。今後はサービスラーニングでの貴重な体験を大いに活かし、精励してまいる所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

末筆ながら、ボランティアの皆様のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

桐蔭横浜大学　スポーツ健康政策学部スポーツ教育学科　津田 美季

皆さん元気にお過しでしょうか。2009 年夏のサービスラーニングでは、お忙しい中、5 日間にも渡って大変お世話になりました。

実習期間中に本当にたくさんのことを学ばせていただきました。“ 非営利 ” という情況の中での施設設立や施設運営は本当に厳しいことだと思います。しかし、そんな中でも「リラのいえ」の皆さんは常に利用者のことを考え、一般的なホテルと同じような清潔さ・便利さを日々追求している姿に心を動かされるものがありました。また、患児を持つ家族は母親だけでなく家族全員が辛いということ、さまざまな重い病気を持っていても子どもたちはそれを受け入れ懸命に生きているということ・・・。健康だけが取柄で、ずっとスポーツを行なってきた私にとって、新しい世界ばかりでした。その他にもこれからの実生活に生かせることをたくさん学びましたが、一番感じたことは、こんな無知な私にもできることがあるということでした。

患者やその家族にとっては大変重要な施設であるにも関わらず、日本でのファミリーハウスの知名度はあまり高くありません。実際に私も「リラのいえ」に来るまでは、大まかなことしか知りませんでした。しかし、ある意味では一部の人のみを対象にした活動なのかもしれませんが、すごく大事な役割を担っていると思います。そして、ここでの体験・感じたことをたくさんの人に伝えていきたいと思いました。

私は大学ではスポーツや教育を専攻しており、子ども医療に関しては専門分野というわけではありませんでした。しかし、今回の実習では自分の将来を考え直すきっかけにもなりました。実習の中で患児や患者きょうだいと遊んだときに子どもたちは笑顔を見せてくれました。その笑顔が私は好きです。人を笑顔にさせたいと思います。「小学校教論」になりたいと言う気持ちがより強くなりました。

至らないところだらけの私でしたが、何事も丁寧に教えてくれた「リラのいえ」の皆さん。感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

きょうだい児へ遊びのボランティア

「リラのいえ」のこのごろ

「リラのいえ」も、おかげさまで２度目の冬を迎えることができました。これも一重にご支援くださった皆様や「リラのいえ」を利用してくださった方々、ボランティア、温かく見守り指導してくださったこども医療センターの皆様のおかげです。皆様に深く感謝申し上げます。

2009 年、「リラのいえ」では、通常の滞在施設運営に加え、「きょうだい児預かり保育事業」をスタートいたしました。「リラのいえ」の利用状況は 10 ～ 11 月に落ち着いてきましたが、「きょうだい児預かり保育事業」は順調に利用されています。

■リラのいえ・利用状況（2009 年 6 月～ 2009 年 11 月）

月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月
家族数	22	26	32	25	23	20
利用者数	335	380	419	183	180	199
稼働率	75.8%	84.3%	69.4%	37.5%	35.5%	38.8%

■きょうだい児預かり保育・利用状況（2009 年 3 月～ 2009 年 11 月）

月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月
件数	16	21	19	26	25	21	15	22	35
人数	16	21	39	26	31	27	15	22	37
預かり時間	43	54	39	99	55.15	47.3	40.0	42.0	119.5

僕もお手伝い

近所の方より、手作りのギフトをいただきました

利用者さんと一緒にクリスマス会を行いました

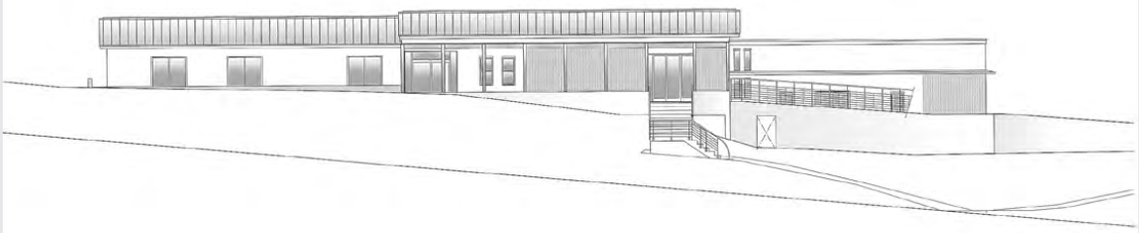
神奈川県立こども医療センター
患者・家族滞在施設

「リラのいえ」2009 年の歩み

2009 年、「リラのいえ」では、皆様のご支援により、通常の施設運営に加え、さまざまな事業を展開することができました。快くご協力くださったすべての皆様に感謝申し上げるとともに、新年は決意を新たに、より一層充実した活動を展開してまいります。

■ 1 年の歩み

2009 年	2 月	「きょうだい児預かり保育事業」を開始
	5 月	横浜市南消防署六ッ川消防出張所より 消防訓練の出前講座を受講
	6 月	在日スロベニア共和国大使館、スロベニアＴＶ、 ＮＨＫエンタープライズより取材を受ける
		こども医療センター体育館にて行われた 「第 9 回ハートキッズセミナー」に参加
		「第 5 回チャリティーピアノコンサート・ 愛する子ども達のために　2009」開催
	8 月	毎年恒例・「バーベキュー会」開催
		「地域がささえるふれあいコンサート　2009」開催
	10 月	「施設見学会」＆「チャリティーバザー」を実施
		「JHHH 滞在施設全国ネットワーク会議」参加 (福島県立医科大学)
	12 月	「クリスマス会」を開催



「リラのいえ」運営にご支援ありがとうございました

（2009 年 6 月 1 日～ 2009 年 12 月 25 日）

■個人年会員・法人会員・寄付（順不同・敬称略）

堀川恵子 / 伊藤文博 / 村山明子 / 武居正則 / 村山明子 / 福田茂信 / 梶本千穂 / 町田久美子 / 尾田千浪 / 落合光美 / 小國厚一郎 / 山口田鶴子 // 神納智津子 / 細野哲 / 増井羊子 / 細谷孝江 / 土屋栄一 / 木通昭 / 山下薫 / 松下やすよ / 扇谷あづさ / 小嶋英雄・冨美子 / 堀川恵子 / 安楽直代 / 安嶋裕美 / 石丸彰 / 大竹裕也 / 平野章 / 稲野美喜子 / 和田紬 / 松崎洋子 / 井上敦子 / 森清治 / 鶴田清子 / 小林政治 / 森田知子 / ホノルルマラソン倶楽部代表最勝時久和 / 開上光代 / 川島浩子 / 小口弘毅 / 太田弘 / 植田美智子 /（株）ザンゴジャパン / 荻野 / 湯川保子 / 後藤久二人展から / 宍戸靖子 / 岩ヶ谷幸子 / 大矢敏子 / 野村愛 / 相原きよみ / 安嶋裕美 / 大竹裕也 / 石丸彰 / 鎌田慎次 / 赤見美満子 / 上田絹子 / 三輪澄子 / 布施菊子 / 大山康正 / 佐々木利明 / 須佐井信子・大濱用克 / 鈴木忠幸・圭子 / 村田大輔・洋子 / 渡辺 / 大竹裕也 / 石丸彰 / 安嶋裕美 / 守谷明美 / 芹沢玲子 / 小林良平 / 山浦襄司 / 森下友恵 / 羽田貞子 / 山野真純 / 大崎逸郎 / 戸畑修 / 小林整治 / 山下史子 / 山田英幸 /（株）イーエックス / 北村敏代 / 石田三千子 / 森晃一 / 大小原徹 / 岩田安里 / 木村紀子 / 渡辺 / 上野皎子 / 野村則子 / 安嶋裕美 / 大竹裕也 / 石丸彰 / 福島亮一 / 岩口泰広 / 石川基子・裕美 / 小林整治 / 平野章 / 新倉久治 /（株）ハートフルタクシー / 三輪澄子 / 木村義肢工作研究所 / 竹内法律事務所 / 宋美智恵 / 鈴木ひとみ / シンク・青山恒雄 / 羽田貞子 / 渡辺 / 浅川富美子 / 小川日出光 / 大竹裕也 / 安嶋裕美 / 石丸彰 / 大野義弘 / 吉田昭寿 /（株）ユニック / 全日本学校教材教具協同組合神奈川支部 / 小林整治 / 稲野みき子 / 天羽七恵 /（株）サクラクレパス / 山本順子 / 柳原隆夫 / 中野千代子 / 石丸彰 / 大竹裕也 / 安嶋裕美 / 木下和子 / 渡辺 / 井原一成・美葉 / 西居宣明 / 萱畑佳代子 / 河村輝夫 / 小林整治 / 宮崎幸枝 / 入佐紘子 / 有本淳子 / 三輪澄子 / 鎌田慎次 / 宮島永太良 / 石川礼子 / 住田勝美 / 小宮弘毅 / 吉富鈴江 / 山浦襄司 / 渡辺 / 小林整治 / 江草真澄 / 羽田貞子 / 大竹裕也 / 安嶋裕美 / 石丸彰 / 重政京子 / 平野章 / 宋美智恵 / 渡辺 / 宗像正子 / 芹沢玲子 / 本多なほみ /（財）日揮社会福祉財団 / フランスベッド（株）商品企画部 /（株）東横商事 /（有）誠幸商事 / 森晃一 / 石丸彰 / 後藤沙里 / 木通昭 / 佐藤庄一朗 / 小林良平 / 小林整治 / 成富育子 / 森田知子 / 関口眞由美 / 大竹裕也 / 山室陽子 / 堰由美子 / 志村直江 / 安嶋裕美 / 木下和子 / Boon 大山 / 久住存 / 鶴田直子 / 永田ちゑ / 須佐井信子 / 三輪澄子 / カトリック藤沢教会 / 関英一郎 / 平野章 / 真道典子 / ソフィアンズ・ウェーブ / 喜入久美子 / 岩田安里

■物品寄付（順不同・敬称略）

セカンドハーベストジャパン（複数回）/ ダットウェー / 花王株式会社 / 草場春美 / 高石直美 / 森清治 / 草場春美 / 山田ひろみ / 田中恵 / 萩原昭子 / 草場春美 / 石井康博 / 森下友恵 / 松田弘美 / 高石直美 / 草場春美 / 諏訪かほる / 佐伯由美子 / 松坂武子 / 片寄直子 / 野村則子 / 吉田太一 / 佐久間薫 / 井川孝文 / 大塚民枝 / 森田知子 / 浅川冨美子 / 高石直美 / 片岡知美 / 古藤文幸 / 津田美季 / 守谷明美 / 宮沢美帆 / 石野巌 / 西居宣明 / 小宮静子 / 大塚民枝 / 桜井晴海 / 成島和子 / 土屋タキ子 / 近藤啓子 / 小原淳 / 佐々木裕子 / 岡田久美子 / 小松眞子 / 石川礼子 / 石橋一子 / 松田由里子 / 稲葉美穂子 / 乙川篤子 / 草場春美 / 住田勝美 / 鎌田慎次 / 工藤友子 / 佐伯慎二 / 高橋敏子 /NPO ファミリーハウス / 佐藤誠洋 / 藤沼 / 竹田こどもクリニック / 高石直美 / 西村昭子 / 上原妙

子 / 鶴見孝子 / 山下薫 / 三宅礼子 /（株）神工舎建築工房 / 高石直美 / 宇佐美写真事務所 / 渡辺正直 / おぐちこどもクリニック / 小寺春樹 / 脇信恵 / 遠藤信行 / 草場春美 /(株) ザンゴジャパン

※ 2009 年 12 月 25 日現在

■ご家族の荷物発送

クロネコヤマト運輸株式会社

2009 年 6 月～ 12 月まで運賃一律のご協力を頂きました。(63 件)

病気の子どもと家族のために‥‥

「リラのいえ」ご支援のお願い

これからも患者・家族をサポートしていくために、皆様の支援を必要としています。「リラのいえ」の活動にご理解・ご協力のほど、何卒、よろしくお願いいたします。

【運営資金のサポート】

◆ リラのいえサポート会員を募集しています。
（個人年会費　1 口 ¥3,000　法人年会費　1 口 ¥30,000 より）

◆ 寄付金は、いつでもお受けしております。
寄付金・個人・法人年会費のお振込先：
郵便振替口座名義　NPO 法人　スマイル オブ キッズ
郵便振替口座番号　００２５０－０－１１３８１７
※寄付金については税額控除の対象となる場合がありますのでご相談ください。

【物品寄附のサポート】

◆ 施設で使用する未使用の物品の提供をお願いします。
日用消耗品：キッチン・バス・トイレ用品、ゴミ袋、トイレットペーパーなど
食　　品：お米、レトルト・インスタント食品、缶詰、嗜好品など
雑　　品：文房具、本、家電品、未使用切手、図書券、商品券など

◆ バザーで販売する未使用の日用雑貨・衣類

【労力、時間を提供するサポート】

◆ 施設事務所でのハウスマネージャーの補佐
入退室手続き、案内、電話対応など

◆ 施設内外の環境整備
施設内の掃除、施設外の清掃、草・木の手入れ

◆ 利用者への対応
利用者が希望する場合の手伝い一般。例．買い物代行など

◆ 特別なサービスの提供
ヘアカット、セラピー、料理、ケーキ作りなど

お知らせ

●チャリティーピアノコンサート「愛する子ども達のために 2010」開催

2010 年 5 月 14 日（金）、第 6 回となる「チャリティーピアノコンサート〜愛する子ども達のために 2010 〜」を、横浜みなとみらいホール大ホールで開催いたします。ぜひご参加ください。

■主催：特定非営利活動法人 スマイルオブキッズ
■日時：2010 年 5 月 14 日（金）／ 開演：18 時 30 分（予定）
■場所：横浜みなとみらいホール・大ホール
■問い合わせ先：lilanoie@lilac.plala.or.jp

リラのいえ

〒 232-0066　神奈川県横浜市南区六ッ川 4 丁目 1124-2
電話・FAX：045-824-6014
e-mail：lilanoie@lilac.plala.or.jp

会報発行者
特定非営利活動法人 スマイルオブキッズ
http://www.smileofkids.jp/　e-mail：toiawase@smileofkids.jp